

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関ホールに運営理念、重要事項を掲示している。理念に沿い、地域との結びつきを重視し、地域のボランティアや近隣の方との交流を深めている。	○	月に1度の勉強会で職員が話し合うことで、理念が具体的なケア目標となるよう取り組みを行って行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、毎日の会議時やその他随時、職員に対し、理念の共有のため話し合いを行っている。職員相互間でもまた、勉強会を通して、理念実現に則した話し合いを行っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族や地域の方がいつでも気軽に出入りできるような環境作りを行い、また毎月ご家族宛に提出する報告書に、理念に沿った個々の取り組みを報告している。	○	家族の継続的な支援がホームの理念であり、入居者の自己実現に資するものであることを、これからも呼びかけ、働きかけて行きたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買物などに出かけ、近隣の人と挨拶、会話を交わしている。近隣の方と触れ合う機会を大切にしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りなどに参加している。また、近所の子供たちが遊びに来てくれるなど自主的な交流も多く、その際には相互に自由な交流が出来るよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>運営推進会議や地域との連携により、地域に貢献できるような支援を今後検討していきたい。</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>会議の意義と重要性を理解していただき、継続的に開催できるよう努めていきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>外部研修に参加し、または社会福祉士の職員による職場内研修を行うことにより、成年後見制度や地域権利擁護事業に関する理解を深めていきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人やご家族に疑問等がないかを適宜伺いながら、わかりやすい説明を行い、十分な納得をいただいた上で、契約や解約を行っている。	○	今後、実際に住んでみて本人に会う環境かを確実に見定めていくためにも、お試しの期間等を作るなどして、本人の意思確認を慎重に行って行きたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段からリラックスの出来るコミュニケーションを図り、利用者が本音を言える関係作りに努めている。上がってきた意見は、職員間で話し合いの上、運営に反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会が少ないご家族にも、入居者の様子がわかるよう月1度、活動状況報告書を送り、金銭面については電話にてお伝えしている。	○	職員の異動については、家族参加のレクリエーション後、挨拶を行っているが、今後とも面会時などで自己紹介を行うなど、緊密に連絡を取り合って行きたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時には意見が聞けるよう挨拶を交わし、会話の中で意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。重要事項説明書にも苦情受付機関について明記しており、利用者が対等の立場に立てる配慮を行っている。	○	家族参加レクリエーション後、家族・職員を交えて話し合いの場を設けている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、全職員で話し合いの場を設けており、職員の意見を反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者のその時その時の状況に合わせ、見守り等必要なサービスが提供できるよう、話し合いを設け、管理者、職員間で調整を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員はユニットごとに固定されており基本的に異動はないが、異動がある場合は、前もって知らせ、異動後も頻繁に顔を出すなどして、入居者へのダメージを最小限にする工夫をしている。</p>	<p>○</p> <p>ユニットごとの行き来の機会を多くすることで、入居者が日中どのユニットでも過ごせることが出来、交流の機会が今以上に持てるように支援していきたい。</p>
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>半年に1度、ユニット内での研修を実施している。また、外部研修にも積極的に参加できるよう調整を行っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との情報交換を行っている。</p>	<p>○</p> <p>今後地域の同業者との交流を深めていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員同士の話し合いを行う他、管理者が個別に職員と話し合う場を設け、個別に悩みを聞いている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年2回、職員が自己評価を付け、向上心を持って働けるよう努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた時や実態調査時、必ず本人と話し合い、本人のニーズ把握に努めている。入所に至らない場合であっても、本人のニーズに最適と思われるアドバイスを、面接時には行っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた時や実態調査時、家族が困っている事、不安に思っている事などを確認し、必要があれば、個別に家族と面談を、必要な回数行っている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームで出来ること、出来ないことを話し合い、他のサービスが適切であるかどうかお互いに検討している。また、他のサービスが適当と思われる場合は、情報を提供し、判断材料としてもらっている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限り本人に見学に来ていただき、ホームの雰囲気を感してもらおうようにしている。本人がホームに馴染めるよう、家族と連絡をまめに取り合い、その方にあったケアが出来るよう努めている。	○
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と食事やお茶を一緒に摂っている。買い物や調理は日常的に行っている。	
			本人が突然の入所、環境の変化についていけず不安にならないように、今後、あらかじめお試しの期間を設けるなど、安心してサービスが受けられる配慮を行って行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時にはお茶をお出しし、ホールや居室で一緒に過ごしていただく時間を長くすることで、同じ空間で過ごす一員であるとの雰囲気作りをしている。また、家族参加の行事を企画し、家族が同じ楽しみを共有できるようにしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	関係を維持しながら行事の参加を促したり、生活状況報告書を作成し送付することで、家族の支援の大切さを理解していただいている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がホームに来て頂けた時には、定期的に訪問いただけるよう、挨拶し、馴染みの方にも馴染めるような雰囲気作りを行っている。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	話の受け答えなどで時々あるトラブルには、すばやく対応し、事の善悪などで一部が孤立しないような心配りを行い、個々の利用者の気持ちを傷つけないように接している。	○	ユニット内でトラブルがあっても、周囲の方が徒に不安感を抱かないよう、気を配りサポートしている。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も必要とあらば、利用者や家族と連絡を取り合っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分で明確な意見を言えない方に関しては、普段の行動や表情に注意し、記録を付けることによって総合的に判断している。アセスメント時には、本人の意向を伺っている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や家族面会時、アセスメント時等で本人の履歴や生活の仕方、家族との係わり合い等を把握し、ケアプラン作成に活かしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入所前の生活状況や、長年暮らした生活状況等を、入所時に本人や家族から聞き取りをすることで、無理なく自分らしく過ごせるような配慮を行っている。	○ 「やることがない」と本人が退屈しないよう、声かけ、気配りをしている。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回職員でミーティングを行い、利用者一人一人が楽しく暮らせる為の話し合いをし、計画作成担当者中心に介護計画を立てている。	○ 本人主体のケアを作っていくため、センター方式の一部導入など、改善を図って行きたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランに明記された期間に応じて見直しをし、またはご本人にケアニーズの変化があった場合には随時見直しを行うことで、本人のニーズに沿った計画を作成している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	○	運営推進会議を通じて、今後必要に応じ、利用するようにしたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関に限らず、家族より希望があった場合は、希望の医療機関に受診できるよう、かかりつけ医と連携を取っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要があれば、家族やかかりつけ医に相談後、専門医に受診している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員は現在いない。協力医療機関の医師に相談しながら、日々の健康管理をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、介護サマリーを渡し、施設での様子を伝えている。頻回に本人や家族との話し合いの機会を持ち、早期退院の支援をしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族やかかりつけ医と相談しながら、緊急時の搬送先を決定している他、延命治療、終末期の対応についてあらかじめ話し合い、方針の共有をしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族には、ホームで出来ること、出来ないことの説明をあらかじめ行い、かかりつけ医と共に支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族やケア関係者間で話し合い、十分な説明の元で転居先で困ることのないようにしている。転居の際には、介護サマリーや直近のケアプランを担当の相談員、介護支援専門員に渡し、適切なケアが転居先でも受けられるよう支援している。		
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b> (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねないよう配慮し、言葉遣いに注意している。記録はスタッフルームで一元的に管理し、外部に流出しないよう配慮している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者一人一人にあった働きかけを行い、入居者一人一人が自ら決めて行動できるように支援している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者を尊重し、その人に合ったペースを大切に、本人の希望が叶うように支援している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の好みに合わせたヘアスタイルなどを聞き、身だしなみやおしゃれができるような支援をしている。理容師の資格を持つ職員が、適宜本人の希望を聞き入れ、散髪を行っている。	○	日頃から身だしなみには気をかけ、外出時には化粧をするなど、女性の身だしなみとして、おしゃれには特に気をつけている。男性についても、こざっぱりとした服装が出来るよう気にかけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	職員も入居者と同じテーブルで食事を取ること で、自然な形で、本人の嗜好や摂取状況についての把握が出来るよう努めている。
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	入居者一人一人のペースに合わせて、くつろいだ入浴が楽しめるよう支援している。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		利用者の生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳が支えられるために、それを活かし、支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力や希望に応じて対応している。外出時の買物は、必要な金銭を利用者が持ち、支払いをしており、職員はそれが適切に行えるように見守りをしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの中だけで過ごす事のないように、散歩や買物など、積極的に近所に出かけ楽しめるようにしている。	○	さらに積極的に、本人の希望に沿った外出ができるよう支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者に希望を聞き、行き先を決定、家族に連絡し、個々に対応いただけるようお願いしている。他、季節感のある場所への外出の計画を立てることで、普段なかなか行けない場所への外出が、ホームで、家族同伴でも行けるよう支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の能力に応じ、電話の取次ぎなどの支援を行っている。	○	家族とのコミュニケーションの手段として、これからはさらに活用していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの人たちが気軽に訪問でき、訪問時はお茶を出し、椅子のセッティングを行うなどして、居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。	○	馴染みのある方とのコミュニケーションの機会を大切にすることで、入居者の孤立感がなくなるよう配慮し、支援している。
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。	○	拘束が入居者の身体的、精神的な障害の拡大要因となることを正しく認識し、拘束のない介護に取り組んでいる。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼夜居室には鍵をかけていない。一部の利用者の安全を考え、玄関の施錠は行っている。家族には十分な説明をし、了解の同意を得ている。		
67	○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者のプライバシーに配慮しながらさりげなく目配り気配りをし、常に利用者の安全に配慮し、支援している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態応じ、自己管理ができる方に対しては、はさみや針など持たせている。刃物等、注意が必要な物品については、保管場所や保管方法などを明確に取り決め、実行している。	○	使用後は目の届かない高いところに保管するなど、安全管理に努めている。
69	○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が発生した場合、事故報告書をまとめており、職員の安全に関する知識の改善に努めている。	○	事故発生時は早急に臨時会議を開催し、再発の防止にさらに努めて行きたい。
70	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や心肺蘇生の研修を行っており、緊急時には、職員は応急手当を行うことができる。		
71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応マニュアルがあり、実行できるよう把握している。定期的に避難訓練を実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	職員は起こり得るリスクについて管理者やかかりつけ医とも相談の上、家族と話し合いを持っている。	○	家族には、面会時の説明、行事へのお誘いによる通常の生活の把握、定期的な連絡により、個々の入居者のありのままの姿を理解してもらい、リスクのありようを正しく認識してもらっている。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員間での連携、情報の共有、医療機関への連絡、主治医の指示を仰ぎ、速やかに対処している。	○	かかりつけ医との連絡は、電話、携帯電話等を使用し、24時間対応が出来る体制を、医療サイドと作り対応している。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者が服用している薬について理解しており、薬に変更があった場合は、記録ならびに申し送りノートを活用して漏れなく伝達している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日体操を行い、また足や腰を鍛える運動を行っている。毎朝の牛乳や、繊維質の多い食事を提供している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者の力を引き出しながら、口腔内の清潔を日常的に支援している。毎食後、歯磨きの声かけをし、援助している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量のチェックをしている。個々の入居者の適切な摂取カロリーや栄養バランスを、一日を通しておおよそ把握している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成し、実行している。うがい、手洗い、食事前の手の消毒を必ず行っている。		
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	配達された食材は、それぞれ冷蔵庫に分けて入れ、保管している。布巾やまな板はその都度消毒している。冷蔵庫も定期的に清掃を行っている。		
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周囲に草花を置いたりして、家庭的な雰囲気を作り出している。	○	玄関前の花は、職員と入居者とが共に植え育てていることで、入居者が季節感を肌で感じることができるよう配慮を行っている。
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では、テレビの音の大きさに注意している。室内は、照明、カーテンで明るさを調整している。また、掲示物等で季節感を採り入れ、居心地のいい空間を作っている。	○	折り紙や貼り絵などで、季節感を味わっていただけるような掲示物を作成できるよう、職員と入居者がお互いに話し合い、作成している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、玄関などに椅子やソファを用意し、気合う入居者同士が語らえるような工夫をしている。冬は座敷に炬燵も用意している。	○	入居者一人一人が自分らしく暮らしていけるように、適宜配置を換えるなどの工夫を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各自それまでの生活で使い慣れ、馴染んだものを持参されている。自身で創作したものを飾り、生活が形としてわかるような支援をしている。</p>	<p>○</p> <p>入居者が作成した創作物や外出した写真を飾るなどして、生活の記憶が形として表されるようにしている。</p>
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>換気や窓の開閉には、訪室し観察を行う等、十分な気遣いを行っている。</p>	
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部はバリアフリーになっており、また、廊下、トイレには手すりを設置、浴室には手すり・滑り止めマットを設置している。</p>	<p>○</p> <p>身体機能の低下防止のため、毎日ラジオ体操や可動域訓練の体操、散歩等の歩行の確保を行っている。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>トイレ、各居室には、見やすくわかりやすい位置に文字や目印を付けている。</p>	
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関先に花を飾っており、時々テーブルを出してお花、おやつを行っている。</p>	<p>○</p> <p>月に1度は、全員戸外にて、ラジオ体操やレクリエーションなど、戸外で活動できる機会をよりいっそう増やして行きたい。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者様への楽しみの提供については、単なるレクリエーションの繰り返しではなく、地域の方との交流でもあるボランティアや慰問の積極的な受け入れ、月に1度の外出での食事会など、家庭でもご高齢になれば味わえなくなる活動の強化に努め、楽しく刺激のある生活が送れるような試みを行っています。